

大地震が起きたその時、あなたは大切な命を守ることができますか？

～ 耐震化の3つの備え ～

1 耐震改修

Step1 耐震診断

■ 建築士の選定

信頼できる建築士を選ぶため、複数の設計事務所から見積もりを取りましょう。

■ 補助制度の確認と申込み

県内の多くの市町村では耐震診断への補助を実施しています。(裏面をご覧ください)

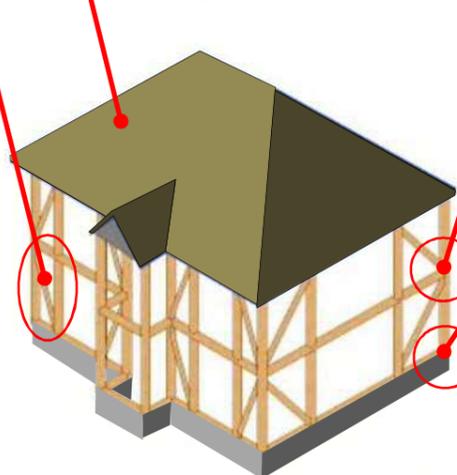
Step2 耐震改修工事(工事期間:1~2週間)

① 壁の増設や筋かいの設置



筋かい

② 屋根の軽量化

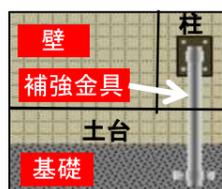


③ 柱、梁(はり)の補強



金物

④ 基礎部分の補強



壁補強金具

基礎

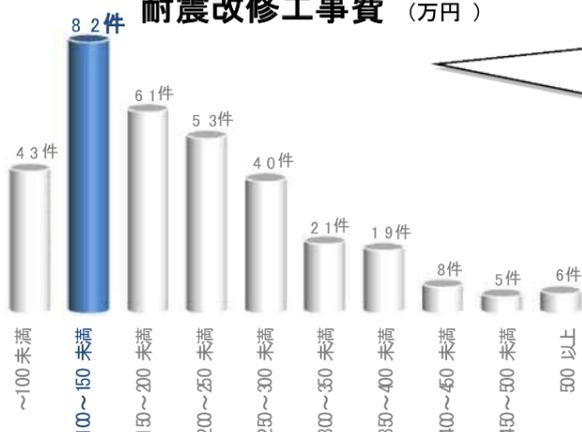
※ 住宅の規模や診断結果により改修工事の実施内容は異なります。

費用の目安

0 25 50 75 100 200 300 400 500 万円



耐震改修工事費 (万円)



100~150 万円未満の工事が最も多い。

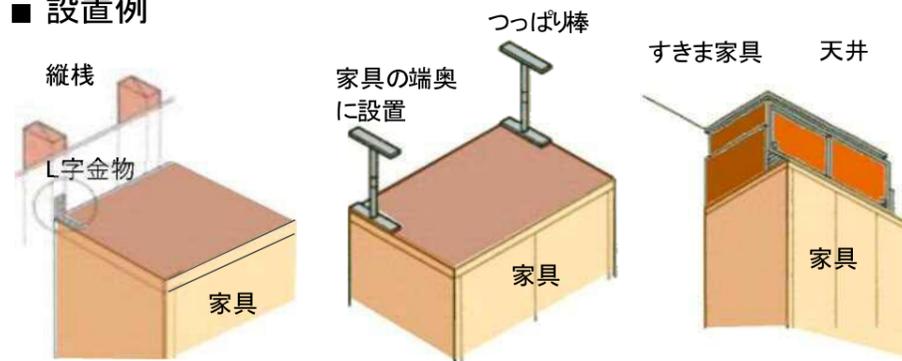
- 市町村の補助制度を活用すれば、支払う金額はもっと少なくて済みます。
- 例えば、30 万円の補助を受けることで、自己負担額は 70 万円~となります。

出典: 木造住宅の耐震改修費用実態調査((一財)日本建築防災協会)

2 家具の転倒対策

「わが家は地震でもつぶれないから大丈夫」そんなあなたの家も家具の転倒対策は万全でしょうか？
阪神淡路大震災では、600 人以上の方が家具の転倒が原因で命を落としています。
家具やテレビの転倒対策は、比較的安価で手軽にできる地震対策です。
「まだ」という方は、今すぐ実践してください。

■ 設置例



「L字金物」は、壁裏の縦棧に木ねじで取り付けてください。

「つっぱり棒」は、手軽にできる転倒対策ですが、天井の補強等が必要です。

「すきま家具」を使えば、収納量も増加します。

家具の転倒対策が未実施の場合



■ 参考 消防庁HP (<http://www.fdma.go.jp/html/life/kagu1.html>)

3 耐震シェルター設置

耐震シェルターは、大地震により住宅が倒壊しても一定の空間を確保して命を守ってくれる装置のことです。主に寝室に設置し寝ている間の大地震に備えます。

「部屋を囲う」タイプ

部屋の中にパネルや鉄骨のフレームを設置して強固な空間を作ります。
主に寝室に設置し、屋間の地震発生時は一時避難所として利用できます。



「ベッド」タイプ

ベッドタイプは鉄骨などの強固なフレームをベッドの上部に設置します。
部屋を囲うタイプと比べ設置期間が短くて済みます。



- 設置期間 2日~2週間
- 補助制度の確認と申込み 17の市町で補助を実施しています。(裏面をご覧ください)